

緑の基本計画

第二期行動計画

～平成 27 年度事業評価～

< 自然環境保全審議会評価結果シート >



評価シートの結果について

1 評価

稲城市自然環境保全審議会委員に5段階（◎、○、△、×、－）で評価していただいたものを点数化し、その平均値を四捨五入し判定します。評価の点数は次のとおりです。

◎＝3点、○＝2点、△＝1点、×＝0点、－＝－1点

※例えば、平均値が1.5点であれば2点となるので全体の評価は○になり、1.4点であれば1点となるので全体の評価は△となります。

2 評価理由

稲城市自然環境保全審議会委員からいただいたご意見をランダムに掲載しております。

評価の集計表(目次)

施策番号	担当課	施策名	総合評価	
			平均点数	評価
1-1	土木課	自然環境保全地域の指定・拡充	2	○
1-2	土木課	樹林理管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	0	×
2-1	土木課	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	2	○
2-1	区画整理課	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	1.285714	△
2-2	土木課	既成市街地での適切な公園配置方針の策定	0.9	△
2-3	土木課	借地公園制度の運用検討	1.9	○
2-4	土木課	身近な公園の再整備	1.9	○
2-5	教育総務課	公共施設の緑化	2	○
2-5	指導課	公共施設の緑化	1.333333	△
2-5	子育て支援課	公共施設の緑化	2.222222	○
2-5	生涯学習課	公共施設の緑化	1.888889	○
2-5	市民協働課	公共施設の緑化	1.666667	○
2-5	健康課	公共施設の緑化	1.8	○
2-5	市立病院管理課	公共施設の緑化	2.111111	○
2-5	図書館課	公共施設の緑化	1.666667	○
2-6	土木課	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	0.9	△
2-6	管理課	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	0.888889	△
3-1	区画整理課	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	0	-
3-1	市街地整備課	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	1.222222	△
3-2	教育総務課	公共施設の緑化	2	○
3-3	都市計画課	地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討	1.9	○
3-4	区画整理課	四季折々に楽しめる街路樹の整備	0	×
3-4	市街地整備課	四季折々に楽しめる街路樹の整備	2	○
4-1	区画整理課	駅前緑化プロジェクト	1	△
5-1	土木課	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	0	×
5-1	市街地整備課	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	1	△
5-2	土木課	各種普及啓発活動の実施	2	○
5-2	管理課	各種普及啓発活動の実施	0	×
5-2	指導課	各種普及啓発活動の実施	2	○
5-3	土木課	水と緑の情報収集・提供	2	○

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-1 自然環境保全地域の指定・拡充

施策の展開方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑の環」を形成している多摩丘陵の斜面緑地は、市内のどこからでも目にすることができるなど、稲城の緑の骨格として緑豊かな稲城のイメージの源泉となっています。 ・市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、自然環境保全地域の指定・拡充を図り、景観や生物多様性の向上に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	良好な民有樹林
平成23年度末の状況	10箇所 8.7ha
10年間の目標	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。
展開手法など	・「稲城市における自然環境の保護と緑の回復に関する条例」に基づく、自然環境保全地域の指定

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	2箇所 0.4ha(計12箇所 8.9ha)	
事業目標量	8箇所 7.6haを追加指定	
第二期事業量	平成26年度	稲城第一中学校西側の斜面緑地(0.9ha)の指定
	平成27年度	松の台南側の斜面緑地(0.4ha)の指定
	平成28年度	薄葉谷戸川東側の斜面緑地(2.4ha)の指定
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・第三期に駒沢学園北側の敷地内緑地(1.2ha)、駒沢学園西側の敷地内緑地(0.2ha)の指定を予定する。 ・第四期は必要に応じて追加指定についての検討 	
平成27年度事業報告		
事業目標	松の台南側の斜面緑地(0.4ha)の指定	
事業実績	天神山東緑地(0.7ha)の指定 ※事業目標の松の台南側の斜面緑地は指定できず。	
担当課評価	○	
評価理由	開発地に隣接した候補地の指定ができたため。	
今後の対応	候補地の新規指定を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標と違う場所であるが、計画より広い場所が指定できたことを評価する。 ・計画通り毎年指定できている。 ・都心に近く緑の多い稲城市は引っ越して来られた方には魅力的なところ。少しでも多く指定できることを期待する。 ・事業目標の指定はできなかったが、関連地域の指定ができた。 ・既存市街地からニュータウンを望む緑の環の一面に該当する箇所、保全緑地指定の当初から重要視している地域が指定できたため。指定順序は柔軟に対応して構わない。 ・目標は達成できなかったが、代替地の指定はできた。 ・自然環境保全地域の指定は、毎年着実に実施されていることが評価できる。 ・平成26年度の評価としては○。 	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-2 樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	・市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、指定された自然環境保全地域の樹林地の育成管理を行う、樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援を行います。
担当課	土木課
対象施設など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	・2箇所 1団体(第一期段階) ・第二期以降に、実施箇所の追加の検討
展開手法など	・穴澤天神社・よみうりランド北側緑地に隣接する、川崎市の小沢城址特別緑地保全地区では、既にボランティアによる樹林地管理が行われている。このボランティア団体と連携を図りながら、稲城市側でも樹林地管理ボランティアを組織化していく。 ・他の樹林地管理についても、その管理ノウハウを広めていく。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	-	
事業目標量	1団体(第一期における目標値。第二期以降に再度検討する。)	
第二期事業量	平成26年度	民有樹林地における活動について検討
	平成27年度	民有樹林地における活動について検討
	平成28年度	民有樹林地における活動について検討
第三期以降	・穴澤天神社・よみうりランド北側緑地での活動を開始し継続。 ・組織化状況や活動状況を踏まえながら、実施箇所の追加を検討する。	
平成27年度事業報告		
事業目標	民有樹林地における活動について検討	
事業実績	なし	
担当課評価	×	
評価理由	活動意向のある団体把握ができていない。	
今後の対応	公共樹林地における活動導入検討を優先、その成果により民有樹林地への拡大を検討して行く。	

評価 (◎、○、△、×、-)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対し大幅に未達である。 ・地域に根ざした方々に協力をいただく方向で、自治会連合会や矢野口自治会に相談することを提案する。 ・人材確保の大変さと必要性を感じる。 ・例えば、シニアボランティア制度のように、新しい活動が起きやすいきっかけがあれば、管理ボランティア組織もできるかもしれない。 ・ボランティア活動は大変。 ・重要施策に掲げているにも拘らず、この分野にはなかなか手が付けられないまま4年経っている。まず、なぜ重要施策としたのかを当時の資料に当たって再確認する。その上で前に進まない理由を洗い出し、いよいよ平成28年度には行動に移す必要がある。何となく軽んじている印象があるが、重要な施策である。先に延ばすともう間に合わない。 ・ボランティアを探すことは非常に困難と思われる。穴沢の湧水利用者にボランティアを募り、その応募者に対して支援することはできないだろうか。 ・樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援については、樹林地管理基本計画・人材育成及び組織化基本計画を総合的に策定し、実施に当たっては、城山公園、中央公園をモデル地区にして、その実施状況を踏まえながら順次他の公園・緑地に広げていくなど、計画を見直す必要がある。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-1 生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備

施策の展開方針	・既成市街地内を流れる大丸用水を活用し、散策路の整備を行い、水と緑の歩行者空間のネットワーク化を進めます。整備を行う際は、身近な親水空間として生態系に配慮した護岸整備などを進めていきます。
担当課	土木課・区画整理課
対象施設など	菅堀・新堀・中野島用水堀
平成23年度末の状況	1,580m(大丸親水公園1,450m、田川130m)
10年間の目標	3,362mの整備
展開手法など	・菅堀は、第四次稲城市長期総合計画に基づきながら、生態系や親水性に配慮した親水公園の整備に努めます。 ・区画整理事業により整備される主要な用水について、生態系や親水性への配慮を事業計画に盛り込み、整備を進めていきます。
備考	・区画整理課は土地区画整理事業区域内を担当し、その他は土木課が担当する。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	大丸親水公園(1,450m)、田川(130m)	
事業目標量	菅堀(540m)	
第二期事業量	平成26年度	
	平成27年度	調査、基本設計
	平成28年度	実施設計(120m)
第三期以降	実施設計の継続、工事の実施	
平成27年度事業報告		
事業目標	調査、基本設計	
事業実績	測量調査	
担当課評価	○	
評価理由	事業着手することができた。	
今後の対応	水路事業として、引き続き進捗を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・担当課の評価理由が「事業着手することができた」となっている。目標は「調査、基本設計」であるので、事業に着手していることは調査、基本設計は終了していると判断した。 ・予定通り進行している。押立堀公園サイドの押立堀の改修が進むことを願う。 ・田んぼは少なくなったが、堀は大切に残して欲しい。 ・親水空間を配慮した事業が一步前進した。 ・測量は第一歩であるが、水にかかわる自然空間の再生や水と人との社会性、地域文化の継承整備は管理の面を考えると困難が予想される。 ・水辺空間の整備については、着実に実施されていることが評価できる。 	

担当課名	区画整理課	
第一期末の状況	田川水路(45m)、新堀水路(97.6m)	
事業目標量	新堀・中野島用水堀など(計1,242m)	
第二期事業量	平成26年度	
	平成27年度	
	平成28年度	
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・榎戸土地区画整理事業:公園通り梨の道線(400m)、清水川系(100m) ・矢野口駅周辺土地区画整理事業:3号水路(111m) ・稲城長沼駅周辺土地区画整理事業:新堀(75m) 	
平成27年度事業報告		
事業目標	第三期以降に整備予定	
事業実績	清水川系水路62mを前倒して整備	
担当課評価	△	
評価理由	平成27年度の完了を見込めず、28年度への繰越工事となったため、「△」評価とした。	
今後の対応	平成28年度の工事完了を目指す。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工中は○で良いのではないか。 ・28年度完了を願う。 ・施行実施できた。 ・生態系、親水空間の創造に配慮しているかどうかは疑問。 	

清水川系水路(施工中)



2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-2 既成市街地での適切な公園配置方針の策定

施策の展開方針	・既成市街地で公園が少ない区域では、身近な緑の拠点づくりとして、適切な公園配置方針の策定を行います。
担当課	土木課
対象施設など	既成市街地
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	・第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定
展開手法など	・公園利用の実態などの不足状況の調査を実施し、まちづくりのあり方に合わせて、市民ニーズを踏まえた公園の配置方針を策定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	【第二期以降事業実施】	
事業目標量	第二期中に公園配置方針の作成	
第二期事業量	平成26年度	既成市街地での公園の不足状況の調査・把握
	平成27年度	既成市街地での適切な公園配置方針の策定
	平成28年度	
第三期以降		
平成27年度事業報告		
事業目標	既成市街地での適切な公園配置方針の策定	
事業実績	既成市街地での適切な公園配置方針の検討	
担当課評価	△	
評価理由	既成市街地での適切な公園配置方針についての検討は行ったが、方針の策定までは至らなかった。	
今後の対応	平成27年度の検討をもとに、既成市街地での適切な公園配置方針を策定する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標は適切な公園配置の検討である。検討したなら○で良い。担当課がそれを△評価とするのは目標が的確でなかったからではないか。 ・公園は幼児から高齢者まで幅広く使用する所なので大変だと思う。 ・実施できていない。 ・確かに既成市街地の公園配置は、とても難しいと思う。しかし防災の観点からも、密集した住宅地には一定規模のまとまった余白を確保する必要があるとのこと。市民の憩いの場という意味合いだけではなく、対応を急ぐべきと思う。まず農地を担保することも重要。また公園の候補地として期待している旨、地権者の方々に伝えることはできないか。 ・方針が策定できなかったということは、活発な議論がなされなかったか、あるいはニーズを把握できなかったと思われる。使用対象者に合わせた配置方針が必要なのではないか。 ・公園用地を確保することが難しいことから、借地公園制度の利用や公有地の一部利用など、「小さな緑・小さな広場」的な小規模のものも検討の対象にしてはどうか。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-3 借地公園制度の運用検討

施策の展開方針	・新たな公園整備が困難な場合、借地公園制度を活用し、借地による公園整備を行います。
担当課	土木課
対象施設など	一定基準を満たすちびっこ広場など
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	・4公園(第一期)
展開手法など	・一定基準を満たすちびっこ広場などを活用して、借地による公園整備を行います。 ・既成市街地での適切な公園配置方針を踏まえ検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	要綱設置、下塚戸の権利者・周辺住民との交渉	
事業目標量	・4公園(第一期) ・第二期以降は、地権者意向などを踏まえながら柔軟に対応していく。	
第二期事業量	平成26年度	・下塚戸の開園告示 ・ふれあいちびっこ広場・坂浜中央ちびっこ広場・なかよしちびっこ広場の借地公園適用の検討
	平成27年度	ふれあいちびっこ広場・坂浜中央ちびっこ広場・なかよしちびっこ広場の借地公園適用の検討
	平成28年度	ふれあいちびっこ広場・坂浜中央ちびっこ広場・なかよしちびっこ広場の借地公園適用の検討
第三期以降	既成市街地での適切な公園配置方針(施策番号2-2)を踏まえて検討	
平成27年度事業報告		
事業目標	ふれあいちびっこ広場・坂浜中央ちびっこ広場・なかよしちびっこ広場の借地公園適用の検討	
事業実績	ふれあいちびっこ広場は26年度に寄附により公有地化することができた。他のちびっこ広場についても公有地化について検討を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	ちびっこ広場に関して用地取得という方向性の確認ができた。	
今後の対応	用地取得方法等について検討を進める。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進行していることを評価。 ・ちびっこ広場の用地確保に努力してほしい。 ・借地場所を見つけ、お願いすることも大変だ。 ・既成市街地の貴重な公園が、地主の協力により公有化される方向性が確認できたのは評価できる。 ・目標の借地公園を飛び越えて、用地取得できたことは成果。ちびっこ広場のままではあるが、開園告示→借地公園→(公共地の)公園の理解でよろしいか。 ・ふれあいちびっこ広場が公用地化したことは評価できるが、一昨年のものであり、働きかけ等を継続して行っていただきたい。 ・借地公園制度や小規模な用地取得の検討などから、ちびっこ広場を確保していくことが評価できる。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-4 身近な公園の再整備

施策の展開方針	・老朽化した身近な公園は、子どもから高齢者までが気持ちよく使え、楽しく魅力ある公園となるよう、整備内容や整備後の維持管理などについて、地域住民との協働による再整備を進めていきます。
担当課	土木課
対象施設など	街区公園など身近な公園
平成23年度末の状況	(随時実施している)
10年間の目標	点検調査結果、市民の声などを踏まえて、必要に応じて再整備
展開手法など	・再整備にあたっては、地域住民からなる検討会など協働による整備を進めます。 ・アダプト制度を活用した、地域住民による公園管理も視野に入れた公園の再整備に努めます。 ・再整備にあたっては、公園施設の点検結果などを踏まえて検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	7公園(矢野口2、押立1、向陽台1、長峰1、百村1、平尾1)	
事業目標量	点検調査結果、市民の声などを踏まえて、必要に応じて再整備	
第二期事業量	平成26年度	随時
	平成27年度	随時
	平成28年度	随時
第三期以降	随時	
平成27年度事業報告		
事業目標	随時	
事業実績	亀山下公園(再整備)、稲城中央公園(公園灯LED化、舗装補修)、平尾近隣公園(施設補修)	
担当課評価	○:評価できる(予定通りに事業が進んでいる)	
評価理由	予算の範囲内で再整備を行った。(総額88,500千円、予算執行率98%)	
今後の対応	引き続き再整備に努める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標が随時では評価のしようがない。事業目標は具体的に決めるようにしてください。 ・予定通りである。 ・平尾近隣公園は盆踊りなど、老若男女の住民の集まる核となっており、補修など再整備は不可欠である。 ・修繕の要素が強いので随時となるのか。再整備の際にヒアリングを行うのは良い。公園のごとのコンセプト設定をしてニーズを掴んでほしい。 ・現在、人口に対する構成は高齢に移行しつつあるが、公園利用する方それぞれの年代で、分け隔てなく健康増進するような整備を願う。 ・各公園がきちんと整備、維持管理されていることが評価できる。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

施策の展開方針	・公共施設は、身近に緑を感じられる拠点として、緑豊かなまちづくりの先導的な役割を果たすよう、広がりと厚みを持った緑の創出に努めていきます。
担当課	教育総務課・指導課・子育て支援課・生涯学習課・市民協働課・健康課・市立病院管理課・図書館課
対象施設など	市所管全公共施設
平成23年度末の状況	・校庭の芝生化2校(第六小、長峰小) ・小中学校17校で緑のカーテンを実施 ・保育園(4園)での花壇・緑のカーテン・菜園の実施 ・文化センター(3館)で緑のカーテンの実施 ・iプラザの屋上緑化 ・地域振興プラザの屋上緑化 ・稲城市健康プラザ及び稲城市立病院健診外来棟・立体駐車場の屋上緑化 ・城山体験学習館の屋上緑化
10年間の目標	・市立保育園、市立小中学校、文化センター、地域振興プラザ、市立病院、城山体験学習館などで緑化の充実
展開手法など	・既存施設では、緑化可能場所を対象に、屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなどの緑化を進め、既に整備済の箇所については維持に努めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
第一期末の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の芝生化4校(第六小、長峰小、平尾小、二中) ・屋上緑化設計2校 	
事業目標量	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の芝生化4校、屋上緑化2校 ・第三期以降は、次期行動計画策定時に検討します。 	
第二期事業量	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化した校庭の維持(6校) ・一小、南山小の屋上緑化(南山小は3-1に再掲)
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化した校庭の維持(6校) ・屋上緑化の維持(2校)
	平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化した校庭の維持(6校) ・屋上緑化の維持(2校)
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化した校庭の維持(6校) ・屋上緑化の維持(2校) ・第三期行動計画策定時に追加を検討 	
平成27年度事業報告		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化した校庭の維持(6校) ・屋上緑化の維持(2校) 	
事業実績	第六小学校・向陽台小学校・長峰小学校・平尾小学校・第二中学校・第四中学校の一部芝生化した校庭及び第一小学校・南山小学校の屋上緑化について維持管理を実施した。	
担当課評価	○	
評価理由	一部芝生化した校庭及び屋上緑化において適正に維持管理を進められた。	
今後の対応	校庭の一部芝生化を行った学校について、学校・PTA・地域の取り組み等により維持管理をすすめる。また、稲城第一小学校・南山小学校の屋上緑化についても、植栽等の状態を注視しながら、適切に維持管理をすすめていく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業が計画通り進行していることを評価。 ・芝生の維持管理に共同体で取り組めるとよい。 ・見学し、管理の大変さを感じた。 ・屋上緑化の日常維持管理は、誰の取り組みで維持できていくのか。頑張ってもらいたい。 ・管理が大変。 ・芝地が授業や部活に生かされているのを聞くと嬉しくなる。毎年書いているのですが、先生方の負担にならない様に配慮をお願いしたい。 ・芝の管理には各校にばらつきがみられる。屋上緑化については管理を生徒と一緒に考察し、どうしたらもっと良くなるかというような検討やほかの植物を配置した場合の考察や研究等、問題点を明らかにすることで生態系に対する造詣が深まるのではないかと。 ・学校の芝生化と維持管理の支援が評価できる。 	

※事業例



二中



平尾小



六小

担当課名	指導課	
第一期末の状況	小中学校16校で緑のカーテンを実施(継続)	
事業目標量	小中学校17校で緑のカーテンを実施(継続)	
第二期事業量	平成26年度	小中学校17校で緑のカーテンを実施(継続)
	平成27年度	小中学校17校で緑のカーテンを実施(継続)
	平成28年度	小中学校17校で緑のカーテンを実施(継続)
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校17校で緑のカーテンを実施(継続) ・緑のカーテンを学校から地域へと広げることを検討 	
平成27年度事業報告		
事業目標	小中学校17校で緑のカーテンを実施(継続)	
事業実績	小中学校18校にゴーヤの種を配布した。原則的に全校実施としているが、生育状況に差が生じている。(平均的な設置規模は24㎡)	
担当課評価	△	
評価理由	学校によって、生育状況に差が生じているため。	
今後の対応	適宜、学校への啓発を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテンはほぼ実施できたのでは。 ・管理される先生によって差ができると思った。 ・種を配付したことで、原則全校実施できるか。子ども達の目に入る光景として、より多くの学校で継続してほしい。 ・生育状況の違いは適切な水やりが行われなかった可能性がある。順調な生育が認められた場合は様々な対照実験が可能であるし、成長が悪い場合は原因の検討ができると思う。教育に絡めた形で利用してはどうか。 ・小中学校の緑のカーテン実施は、学校側の状況に左右されるので、このような現状はやむを得ないかと思う。 	

担当課名	子育て支援課	
第一期末の状況	保育園4園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
事業目標量	保育園4園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
第二期事業量	平成26年度	保育園4園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成27年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成28年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
第三期以降	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
平成27年度事業報告		
事業目標	保育園3園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
事業実績	花壇、緑のカーテン、菜園の実施を継続した 緑のカーテン: 第三保育園3.6㎡、第四保育園11㎡、第五保育園20㎡ 花壇: 第三保育園14.4㎡、第四保育園1.3㎡、第五保育園10㎡ 菜園: 第三保育園(畑80㎡+花壇3.6㎡)、第四保育園10㎡、第五保育園7㎡	
担当課評価	○	
評価理由	第三保育園: 緑のカーテンにより日差し対策ができるようになった。さらに景観もよくなり、目標へと順調に進んだ。 第四保育園: プランターの花は常に花が絶えないようにしたり、野菜は栽培・収穫して、自分たちで調理し食べることで、植物の成長だけでなく、食への関心も高めることができた。 第五保育園: 種集めを子ども達も率先して行った。	
今後の対応	引き続き継続していきたい。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き継続できるようにしたい。 ・保育園の見学で、先生方の子供への思いがわかった。 ・組織が大きいいため、着実に実行維持管理できていると感じる。有効性が理解されているからだと思う。 ・毎年保育園を見学させていただくと、微笑ましくて嬉しくなる。幼児の教育には植物のお世話がよく馴染むとみえて緑化と教育の両面で成果が表れていると感じる。 ・幼少期に様々な方向へ関心を向けてみると、自発的に五感を使い、植物、食物等に接することで様々なことが学習できると思う。 ・保育園の緑化、菜園の実実施は、園の意識も高いことがうかがえる。引き続き支援が必要だ。 	

担当課名	生涯学習課	
第一期末の状況	文化センター3館で緑のカーテンの実施・iプラザ屋上緑化の実施(継続)	
事業目標量	文化センター5館で緑のカーテンの実施・屋上緑化の維持(継続)(iプラザ)	
第二期事業量	平成26年度	文化センター4館で緑のカーテンの実施(継続)・屋上緑化の維持(継続)(iプラザ)
	平成27年度	文化センター4館で緑のカーテンの実施(継続)・屋上緑化の維持(継続)(iプラザ)
	平成28年度	文化センター4館で緑のカーテンの実施(継続)・屋上緑化の維持(継続)(iプラザ)
第三期以降	文化センター4館で緑のカーテンの実施(継続)・屋上緑化の維持(継続)(iプラザ)	
平成27年度事業報告		
事業目標	文化センター4館で緑のカーテンの実施(継続)・屋上緑化の維持(継続)(iプラザ)	
事業実績	文化センター4館で緑のカーテンの実施(継続)・iプラザ屋上緑化の維持(継続) オーシャンブルーが越冬できなかった場合は、オーシャンブルーに比べ早くから花が咲く、琉球あさがお(クリスタルブルー)での緑のカーテンを実施した。また、琉球あさがおの葉が繁り花が咲くまでは、足元に日々草を植える等の工夫を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	各文化センターでは、緑のカーテンで直射日光を遮断することができた。	
今後の対応	施設の緑を維持できるよう、メンテナンスを継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテン、屋上緑化の継続ができるように関係者の努力を期待する。 ・暑い真夏の水やり時間には大変だと思ふ。 ・琉球朝顔の緑のカーテン、きれいが良い。実施面積が減少していないか。 ・写真などの資料がほしい。 ・再度植えることが煩わしく、春先すぐに緑のカーテンを利用したいという意向と感じた。日々草を根元に植えることもよいが、クレマチスのような耐寒性を有する、つる性植物を利用するという考えもあると思ふ。 ・各文化センターの緑のカーテンの実施は、文化センター側の状況に左右されるので、このような現状はやむを得ないかと思ふ。 	

担当課名	市民協働課	
第一期末の状況	地域振興プラザ屋上緑化の実施(継続)	
事業目標量	屋上緑化の維持(継続)	
第二期事業量	平成26年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成27年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成28年度	屋上緑化の維持(継続)
第三期以降	屋上緑化の維持(継続)	
平成27年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持(継続)	
事業実績	地域振興プラザ屋上緑化の継続	
担当課評価	○	
評価理由	維持管理に努めたため。	
今後の対応	現状の設備の範疇で引き続き緑化推進に取り組んでいく。過去に「環境の厳しい屋上でセダムを選択したことを評価する。」との外部評価を頂いていることや、セイタカアワダチソウの種子が飛来していることもあるため、セダムに替わる品種の導入については、防根対策などの躯体への影響や、近隣への影響も含めて今後の課題とする。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理に努めていただきたい。タマリユウを試験的に使ってみてはどうか。 ・雑草であっても緑があることは良いのかもしれないが、大きくなならない雑草でも良いような気がする。 ・セダムに替わる品種の導入も難しいかと思う。維持管理の難しい現状設備でも維持は重要だ。 ・写真などの資料がほしい。 ・以前、視察したときは滞水の影響が認められた。現在改善したとの情報はない。管理は煩わしいかと思われるが、緑化面積は限られているので除草はしたい。 ・地域振興プラザの屋上緑化の維持管理は、散水施設などが無い状況の中で、まずまずの状態を維持していたことは評価できる。 	

担当課名	健康課	
第一期末の状況	稲城市健康プラザ屋上緑化の実施(継続)	
事業目標量	屋上緑化の維持(継続)	
第二期事業量	平成26年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成27年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成28年度	屋上緑化の維持(継続)
第三期以降	屋上緑化の維持(継続)	
平成27年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持(継続)	
事業実績	屋上緑化の維持(継続):リュウノヒゲ 261m ²	
担当課評価	○	
評価理由	順調に育成している	
今後の対応	リュウノヒゲ以外の植物についても検討	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理に努めていただきたい。個々もタマリユウを試験的に採用してみたらどうか。 ・冬の寒さより夏の暑さと水やりが大変だと思う。 ・均一に育成管理は難しいと思う。リュウノヒゲ以外の植物を加えることで、より順調な育成維持できることを期待する。 ・設備が最新なので、もしかしたらもう少しできるのではないか。 ・屋上緑化により周囲の温度上昇が多少緩和していると思われる。指定管理者が管理していると聞いているので、屋上の様子を掲示板等で紹介することで利用者に認知され、先々のボランティア活動につながっていくのではないか。 ・まずまずの維持管理がされているのが評価できる。 	

※事業例



健康プラザ屋上

担当課名	市立病院 管理課	
第一期末の状況	稲城市立病院健診外来棟・立体駐車場屋上緑化の実施(継続)	
事業目標量	屋上緑化の維持(継続)	
第二期事業量	平成26年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成27年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成28年度	屋上緑化の維持(継続)
第三期以降	屋上緑化の維持(継続)	
平成27年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持(継続)	
事業実績	屋上緑化の維持(除草等)	
担当課評価	○	
評価理由	緑化の維持・管理ができた。	
今後の対応	今後も除草等を行い維持・管理を行う。なお、平成26年度の病院健診外来棟事業報告に対する意見を参考に27年度から自然に発生したねじ花が増えるよう、除草から除いている。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの管理は申し分ない。 ・雑草も大切な植物だ。駐車場屋上はいつも管理されていてよい。病室からも見えるが、車で上がった時しかじっくり見れなくて残念。 ・市立病院立体駐車場は、利用者も病院からも見える緑なので、より維持管理に努めていただきたい。 ・管理が大変。 ・良く管理されている。 ・手入れが行き届いていて美しい。 <p>管理を業者委託していると聞いている。引き続き植物の生理にあった管理をしていただきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分に維持管理されていることが評価できる。 	

※事業例



市立病院外来棟屋上



市立病院駐車場屋上

担当課名	図書館課	
第一期末の状況	城山体験学習館屋上緑化の実施(継続)	
事業目標量	屋上緑化の維持(継続)	
第二期事業量	平成26年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成27年度	屋上緑化の維持(継続)
	平成28年度	屋上緑化の維持(継続)
第三期以降	屋上緑化の維持(継続)	
平成27年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持(継続)	
事業実績	屋上緑化の維持(継続)	
担当課評価	○	
評価理由	当初想定したものとは異なる種であるものの、緑化は維持できているため。	
今後の対応	屋上緑化の維持(継続)	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理に努めていただきたい。 ・一応、緑化が維持できて良かった。 ・屋上緑化としては維持できている。 ・写真などの資料がほしい。 ・去年の視察時には、約20%程度の枯れがあったと記憶しているが、新たな植栽があっただろうか。あるいは雑草により緑陰しているということであろうか。どのような形がベストであるのかを検討すべき。 ・施設そのものが維持管理することを前提に作られていないと思われるので、今の状況はやむを得ないと思う。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-6 自然樹形を感じさせる維持管理の検討

施策の展開方針	<ul style="list-style-type: none"> ・道路は日常的に市民が利用する空間であり、道路の緑がもたらすイメージは緑の豊かさを感じるための主要な要素になっています。また、広がりと厚みを持った豊かな街路樹のある道路は、季節を感じることができます。 ・これからの街路樹は、それぞれの樹種の特徴を活かした自然樹形を感じさせる剪定手法や、美しい花を楽しめる剪定時期の採用など、維持管理手法を検討していきます。
担当課	土木課・管理課
対象施設など	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺への影響が少ない大規模な公園 ・周辺への影響が少ない路線
平成23年度末の状況	2路線(多摩川サイクリングロード、三沢川側道)
10年間の目標	5公園、8路線
展開手法など	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺への影響が少ない大規模な公園や市道を対象に、自然樹形を感じさせる樹木管理を行い、街に風格を与えるように努めます。 ・これらのために、緑の育成管理手法の検討、選定手法など維持管理手法の検討を行います。 ・都道は、東京都へ協力を要請します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況		
事業目標量	稲城中央公園、城山公園、若葉台公園、大丸公園、平尾近隣公園(5公園)	
第二期事業量	平成26年度	自然樹形を感じさせる育成管理の実施(5公園)
	平成27年度	継続
	平成28年度	継続
第三期以降	追加実施公園の検討	
平成27年度事業報告		
事業目標	継続	
事業実績	稲城中央公園、城山公園で実施	
担当課評価	△	
評価理由	実施はしているが計画性に欠ける。	
今後の対応	実施を進めると共に管理計画等の策定を検討する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画性に欠けても事業の進行が計画通りに進行しているなら○でもよい。要は最終年度に目標とするものが達成されればよい。 ・自然樹形のモデルとして街路樹剪定を何箇所か実施できないか。 ・広い公園は管理が大変だと思う。 ・公園の中のどのエリア、またはどの木が対象なのかを、公開して欲しい。管理が行き届いていなくて放りっぱなしなのか、敢えてのびのびと茂らせているのか、分かったほうが良い。市民としては意識的に訪れたいし、愛でたい。 ・自然樹形を感じさせる管理により、緑の豊かさで公園を杜のイメージに近づけさせられるのではないか。 ・作業を実施した公園は樹木の本数が多く、すべての樹木を剪定によりコントロールすることは非常に困難であると思われる。安全性の確保は管理上譲れないため、歩道や遠路沿いの枯枝除去が中心作業であろう。このような管理を行った場合、期せずして樹木は自ずと自然形となるが、年輪成長により巨大化することとなる。この場合、樹林密度が高いと全体的に背の高い樹木が増え、間伐し適切な密度であれば畏怖堂々とした樹木が増えるであろう。 ・樹林地管理については、樹林地管理基本計画・人材育成及び組織化基本計画を総合的に策定し、実施に当たっては、城山公園、中央公園をモデル地区にして、その実施状況を踏まえながら順次他の公園・緑地に広げていくなど、計画を見直す必要がある。 	

担当課名	管理課	
第一期末の状況	2路線(多摩川サイクリングロード、三沢川側道)の適切な育成管理	
事業目標量	竪神社通り、iプラザふれあいロード、若葉台東櫨の木通り、若葉台西櫨の木通り、若葉台中央通り、若葉台公園西通り(6路線)	
第二期事業量	平成26年度	・現況2路線の適切な育成管理 ・自然樹形を感じさせる育成管理手法の検討
	平成27年度	自然樹形を感じさせる育成管理の実施(6路線)
	平成28年度	継続
第三期以降	追加実施路線の検討	
平成27年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理の実施(6路線)	
事業実績	現況2路線の適切な育成管理を行った。	
担当課評価	△	
評価理由	自然樹形を感じさせる育成管理手法を明確にできなかった。	
今後の対応	自然樹形を感じさせる育成管理手法の検討を行っていく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然樹形のモデルとして剪定していただきたい。 ・稲城市の緑維持には人手とお金がかかり、変だと思う。 ・街路樹は、日常的に誰の目にも入る重要な緑なので自然樹形の育成実施して欲しい。 ・サイクリングロードや歩道は人が立ち入るので、自然樹形を感じさせつつも事故の無い管理をお願いします。方針にある「これからの街路樹は、それぞれの樹種の特徴を活かした自然樹形を感じさせる剪定手法や、美しい花を楽しめる剪定期期の採用など、維持管理手法を検討していきます。」にとても期待している。 ・2路線に対して作業を行ったが、自然樹形を感じさせる育成手法が分からなかった。路線は公園(面)と違い「線」なので、自然樹形の創造は完全に可能である。樹木の特徴を踏まえ、切り詰めずに切り戻し、枝を更新することで完全にダウンサイズした自然樹形となるはずであり、何を検討しているのか疑問を感じる。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-1 土地区画整理事業による公園・緑地の整備

施策の展開方針	・土地区画整理事業により、計画的に配置された公園や緑地が、新市街地の整備とともに、整備されてきます。これらの公園・緑地の整備にあたり、積極的に広がりと厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。また、植栽する樹木には、樹名板を設置して市民が親しみを持てるようにします。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	新たに設置される公園・緑地
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	・公園18箇所(157,871㎡) ・緑地23箇所(88,540㎡)
展開手法など	・事業区域内の権利者や関係団体と協議し、緑の基本計画の考え方が反映されるように、整備内容の検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
第一期末の状況	【第三期以降施策実施】	
事業目標量	公園(6箇所)10,488㎡の整備	
第二期事業量	平成26年度	
	平成27年度	
	平成28年度	
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・榎戸土地区画整理事業:公園3箇所8,001㎡ ・矢野口駅周辺土地区画整理事業:公園1箇所1,550㎡ ・南多摩駅周辺土地区画整理事業:公園1箇所529㎡ 	
平成27年度事業報告		
事業目標		
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	-未評価(当該年度は着手時期ではない)
平成27年度事業報告に対する意見	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 0; right: 0; width: 100%; height: 100%; border-left: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;"></div> </div>	

担当課名	市街地整備課	
第一期末の状況	【第二期以降事業実施】	
事業目標量	<ul style="list-style-type: none"> ・公園(12箇所)147,383㎡の整備 ・緑地(23箇所)88,540㎡の整備 	
第二期事業量	平成26年度	
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:緑地3箇所11,330㎡
	平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:公園1箇所220㎡ ・上平尾土地区画整理事業:公園4箇所13,640㎡、緑地4箇所16,400㎡
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:公園5箇所(130,247㎡)、緑地14箇所(55,874㎡) ・(仮称)小田良土地区画整理事業:公園3箇所(8,180㎡) 	
平成27年度事業報告		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:緑地3箇所11,330㎡ 	
事業実績	南山東部土地区画整理地内にある、緑地1号、2号、7号についての緑地3箇所については、現在施工中である。	
担当課評価	△:やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)	
評価理由	予定工期と大幅に遅れているが、着工できたことにより事業が着実に進んでいる。	
今後の対応	工期の見直しを図り、早期竣工を目指す。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・着工できた所は○でもいいのでは。 ・これからの所なので楽しみにしている。 ・早期に竣工ができ、稲城の街らしい緑地ができて欲しい。 ・区画整理は計画通りに進まない。 ・内容はわからないが、大幅に遅れているとはどの程度であろうか。なぜ遅れてしまったのかを検討し、どのようにすれば予定通りに施工できるのかの確認が必要ではないか。計画が不十分であったのか、施工に問題があったのかが見えてこない。 	

※事業例



緑地予定地

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-2 公共施設の緑化(学校など)

施策の展開方針	・稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、新たな公共施設の整備もされます。これらについて、積極的に広がりと厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	教育総務課
対象施設など	(仮称)南山小学校における屋上緑化などの緑の創出と維持
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	敷地内緑化及び屋上緑化などによる緑の創出と維持
展開手法など	・新設予定の(仮称)南山小学校について、屋上緑化などの緑の創出を進める。
備考	2-5に再掲

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
第一期末の状況	(仮称)南山小学校における屋上緑化及び緑化基準を満たす実施設計	
事業目標量	(仮称)南山小学校における敷地内緑化及び屋上緑化などの緑の創出と維持	
第二期事業量	平成26年度	建設工事
	平成27年度	開校
	平成28年度	整備後の屋上緑化などの維持
第三期以降	・整備後の屋上緑化などの維持	
平成27年度事業報告		
事業目標	開校	
事業実績	27年2月に南山小学校新築工事および南山小学校緑化工事が予定どおり竣工し、開校にあわせて計画どおり敷地内緑化・屋上緑化を	
担当課評価	○	
評価理由	計画どおり、南山小学校の開校にあわせて敷地内緑化・屋上緑化を整備することができた。	
今後の対応	植栽等の状態を注視しながら、維持管理をすすめていく。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りである。 ・暑い夏を涼しく感じさせる緑を大切に育てて欲しい。 ・開校したばかりでまだ余裕がないと思うが、設備に恵まれているのでしっかり管理していただきたい。 ・第一期からの緑化基準を満たす実施設計が開校にあわせて実施できたし、鳥避対策など工夫もされている。 ・工期に合わせ施工が完了した。しかしながら植栽基盤には問題があるように感じたので、今後の樹木の衰退が懸念される。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-3 地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討

施策の展開方針	・この10年間で整備完了が見込まれている南山東部土地区画整理事業・上平尾土地区画整理事業・(仮称)小田良土地区画整理事業では、適切に緑が確保され、良好な市街地が形成されるように、地区計画区域の拡充を図るとともに、緑化率などの導入について検討を進めていきます。
担当課	都市計画課
対象施設など	南山東部土地区画整理事業・上平尾土地区画整理事業・小田良土地区画整理事業、押立第一地区
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	3箇所145.9haの決定
展開手法など	・各土地区画整理事業区域において、地区計画の決定を行う。 ・地区計画の内容に、緑化率などの導入を盛り込むことを検討する。

担当課別行動計画

担当課名	都市計画課	
第一期末の状況	南山東部地区、平尾中央地区、上平尾地区地区計画の決定(約160.6ha)	
事業目標量	3箇所145.9haの決定	
第二期事業量	平成26年度	・(仮称)小田良土地区画整理事業に伴い計画されている地区計画区域(28.6ha)について緑化率などに関する規定を盛り込んだ地区計画の決定 ・押立第一土地区画整理事業に伴い計画されている地区計画区域(1.3ha)について緑化率などに関する規定を盛り込んだ地区計画の決定
	平成27年度	↑
	平成28年度	
第三期以降		
平成27年度事業報告		
事業目標	・(仮称)小田良土地区画整理事業に伴い計画されている地区計画区域(28.6ha)について緑化率などに関する規定を盛り込んだ地区計画の決定 ・押立第一土地区画整理事業に伴い計画されている地区計画区域(1.3ha)について緑化率などに関する規定を盛り込んだ地区計画の決定	
事業実績	小田良土地区画整理事業に伴い計画されていた地区計画区域(約28.6ha)について、緑化率の規定を盛り込んだ地区計画を決定した。	
担当課評価	○:評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)	
評価理由	緑化率の最低限度10分の1以上(当該区域の一部約1.7haについては10分の0.5以上)の制限とし、沿道部分への緑化に配慮することにより、新市街地の緑地環境の創造を推進した。	
今後の対応	平成27年度末の段階で、本事業の対象施設に対して、地区計画を決定し、緑化率の制限を設けた。今後は、地区計画の運用を通して、適切に緑の確保が図られるように対応していく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに実施できた。 ・小田良の住民は埃が大変だ。早期の緑化が必要。 ・緑化率の規定を有する地区計画の街並みの割合が市内で高まることにより、無計画な開発による緑の少ない地域を補う街づくりが確保できる。 ・地区計画の中に緑被率を盛り込めたのは成果。元々緑の多い地域であったことと、区画整理事業という新しい街づくりの気風で実現できたのでは。「INAGIブランド」というか、街の資産になる規定だと思うので、ぜひ他の地域にも導入できるよう進めてほしい。 ・緑化率の目標は具体的なビジョンが良くわからず、評価が難しい。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-4 四季折々に楽しめる街路樹の整備

施策の展開方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、骨格となる道路に街路樹が整備されます。 ・ 街路樹の整備は、四季折々に花や紅葉が楽しめるなど季節を感じることのできる樹種を選ぶなど、緑を増やすだけでなく、暮らしにやすらぎをもたらすような工夫をして、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	各土地区画整理事業区域
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	16路線(9,103.8m)
展開手法など	・ 樹種や植栽パターンは、稲城市樹木花卉植栽計画及び地域住民の意見を反映します。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
第一期末の状況	【第二期以降事業実施】	
事業目標量	5路線(1,539m)の整備	
第二期事業量	平成26年度	
	平成27年度	南多摩駅周辺土地区画整理事業:矢野口大丸線(150m)
	平成28年度	
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 榎戸土地区画整理事業:宿榎戸線(380m)、公園通り梨の道線(630m) ・ 矢野口駅周辺土地区画整理事業:矢野口大丸線(119m) ・ 稲城長沼駅周辺土地区画整理事業:稲城長沼駅前通り線(260m) 	
平成27年度事業報告		
事業目標	南多摩駅周辺土地区画整理事業:矢野口大丸線(150m)	
事業実績	未実施	
担当課評価	×	
評価理由	電線共同溝の整備に着手できておらず、街路樹の整備にまで至っていない。このため「×」評価とした。	
今後の対応	電線共同溝の整備の目途がつき次第、街路樹の整備について検討を進める。	

評価 (◎、○、△、×、-)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画が実施できなかった。 ・ 今後に期待する。 ・ 来年度を楽しみにしている。 ・ 市は色々な所を整備しているので大変だと思う。 ・ 整備に着手できなかった。 	

担当課名	市街地整備課	
第一期末の状況	【第二期以降事業実施】	
事業目標量	14路線(7,564.8m)の整備	
第二期事業量	平成26年度	
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:1路線(172m) ・上平尾土地区画整理事業:坂浜平尾線(488.3m)
	平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:計3路線(計939m) ・上平尾土地区画整理事業:小田良上平尾線(684.5m) ・(仮称)小田良土地区画整理事業:坂浜平尾線(245m)
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:計6路線(計4,209m) ・(仮称)小田良土地区画整理事業:小田良上平尾線(710m) 	
平成27年度事業報告		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:1路線(172m) ・上平尾土地区画整理事業:坂浜平尾線(488.3m) 	
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・南山東部土地区画整理事業:1路線 ・上平尾土地区画整理事業:坂浜平尾線(488.3m) 	
担当課評価	○:評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)	
評価理由	当初の計画どおりに事業が進んだ。	
今後の対応	事業が完了したため、特になし。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り進んでいる。 ・上平尾が便利になるが、やはり緑は少なくなるので、削られる緑が寂しい。 ・成長が楽しみである。 ・事業完了した。適切な街路樹が選択できたかに関しては疑問があった。 	

※事業例



南山



上平尾

4.駅前緑化プロジェクト

4-1 駅・駅前広場の緑化

施策の展開方針	・市街地内の南北分断や交通渋滞を解消するために、JR南武線の高架事業を進めています。高架事業の完了にあわせて、JR南武線の稲城長沼駅と南多摩駅には、駅前広場が整備されます。これから新しく整備される駅前広場は、緑を大切にしている稲城市民の気持ちが伝わるような、緑が豊かで心やすらぐ姿となるように広がりと厚みを持った緑の整備を進めていきます。
担当課	区画整理課
対象施設など	JR南武線 稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場の整備
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	稲城長沼駅・南多摩駅で緑豊かで心安らぐ駅前広場の整備
展開手法など	・事業区間内の地権者や関係団体と、緑豊かな駅前広場の整備内容について検討していきます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
第一期末の状況	【第二期以降事業実施】	
事業目標量	JR南武線 稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場の整備	
第二期事業量	平成26年度	南多摩駅前広場(2,400㎡)
	平成27年度	↑
	平成28年度	
第三期以降	<ul style="list-style-type: none"> ・整備計画の検討 ・稲城長沼駅前広場(4,400㎡) 	
平成27年度事業報告		
事業目標	南多摩駅前広場(2,400㎡)	
事業実績	駅前広場1,780㎡の整備(バス・タクシーのロータリー部)	
担当課評価	△	
評価理由	平成27年度は駅前広場の一部の暫定整備を行い、植栽等を含めた本整備は、平成28年度に行うため、「△」評価とした。	
今後の対応	平成28年度に残りの範囲について整備を実施し、駅前広場の完成を目指す。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画より遅れているので△とした。 ・来年度の計画を見た。楽しみである。 ・来年度に期待している。 ・今年度に期待している。 ・今年度に完成させてもらいたい。 ・駅前広場の一部のみの整備であった。 	

※事業例



南多摩駅前広場

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-1 市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	・人材の育成と組織化については、水と緑のまちづくりの地域リーダー、樹林地保全活動の指導者、自然観察の指導者、アダプト制度の参加者、公園でのプレイリーダーなど、活動の核となる人材の育成と、その組織化について取り組み、市民団体の知識や技術力向上のための支援、道具や資材などの活動支援について検討していきます。
担当課	土木課・市街地整備課
対象施設など	稲城中央公園・城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地
平成23年度末の状況	【新規】
10年間の目標	・プレイリーダーによる公園運営の定着(稲城中央公園) ・樹林地管理ボランティアの活動の定着(稲城中央公園、城山公園)
展開手法など	・稲城中央公園の一部区域で、市民主体のプレイリーダーによる公園の運営を軌道にのせるために、市民とともに検討を進めていく。 ・城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地で市民主体の樹林地の育成活動の展開を進め、樹林地管理ボランティア活動の定着を進めていく。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	—	
事業目標量	・プレイリーダーによる公園運営の定着(稲城中央公園) ・樹林地管理ボランティアの活動の定着(稲城中央公園、城山公園)	
第二期事業量	平成26年度	人材育成・組織化・活動支援方策の検討
	平成27年度	・プレイリーダーの募集・育成と稲城中央公園(旧第二公園)でのプレイパークの検討
	平成28年度	・稲城中央公園(旧第二公園)でのプレイリーダー活動開始 ・樹林地ボランティアの人材育成・組織化・活動支援方策の検討
第三期以降	樹林地ボランティア参加者の呼びかけ、活動開始(稲城中央公園、城山公園)	
平成27年度事業報告		
事業目標	・プレイリーダーの募集・育成と稲城中央公園(旧第二公園)でのプレイパークの検討	
事業実績	人材確保の検討	
担当課評価	×	
評価理由	人材確保の方向性が定められていない。(既定活動団体が無い等のため)	
今後の対応	引き続き、人材確保について検討を行う。	

評価 (◎、○、△、×、—)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<p>・担当課の評価通り。このままでは最終年度を終わっても何もできないのではないか。いなぎグリーンウェルネス財団等の現場に近い人にも協力してもらい、行動を起こすべきではないか。</p> <p>・一層の努力を願う。</p> <p>・1-2「樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援」でもあったが、これからの大きな課題だと思う。</p> <p>・とりあえず、団塊世代の文化センターなどで活動している様々なグループに力を貸してもらえよう、呼びかけられないか。その下の年代の人達の発掘も重要。</p> <p>・ボランティアは大変。</p> <p>・重要施策に掲げているにも拘らず、この分野にはなかなか手が付けられないまま4年経っている。まず、なぜ重要施策としたのかを当時の資料に当たって再確認する。その上で前に進まない理由を洗い出し、いよいよ平成28年度には行動に移す必要がある。何となく軽んじている印象があるが、重要な施策である。先に延ばすともう間に合わない。</p> <p>・公園利用者に呼びかけ、安全利用ができるよう、簡単な作業のボランティアを集めてみてはどうか。</p> <p>・樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援については、樹林地管理基本計画・人材育成及び組織化基本計画を総合的に策定し、実施に当たっては、城山公園、中央公園をモデル地区にして、その実施状況を踏まえながら順次他の公園・緑地に広げていくなど、計画を見直す必要があると考える。</p>	

担当課名	市街地整備課	
第一期末の状況	南山東部地区内の公園の一部で公園づくりを実施、エリアマネジメント組織設立	
事業目標量	エリアマネジメント組織による公園づくり及び維持管理の検討(南山東部地区)	
第二期事業量	平成26年度	人材育成・樹林地管理の実践
	平成27年度	人材育成・樹林地管理の実践
	平成28年度	人材育成・樹林地管理の実践
第三期以降		
平成27年度事業報告		
事業目標	人材育成・樹林地管理の実践	
事業実績	南山東部土地区画事業区域における公園・緑地あり方検討会及び作業部会を設け、公園づくりについて、市民、エリアマネージメント、市と協議中である。	
担当課評価	△: やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)	
評価理由	現在、協議が始まったばかりであることから、現段階では評価はできない。しかし、前年度は、組織も確立していなかったことを鑑みれば、大きな前進であると考えられる。	
今後の対応	南山東部土地区画整理事業区域における公園・緑地あり方検討会及び作業部会で多くの市民の声を反映できるよう事業を継続していく。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・エリアマネジメントの活動が始まれば○でよい。 ・多少なりとも南山で人材育成が進んでいることは喜ばしい。 ・新しい街の市民の声を反映できる場やチャンスの中から、実践の担い手となる協力者を引き出せると前進すると思う。 ・期待している。 ・健全な方向へ進んでいくことを望む。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-2 各種普及啓発活動の実施

施策の展開方針	・稲城市が管理する公共施設の植栽に樹名板を設置し、市民の緑への関心を高め、緑に対し理解を深めていく機会を増やしていきま
担当課	土木課・管理課・指導課
対象施設など	公園・道路植栽・学校(小学校11校・中学校6校)
平成23年度末の状況	・大丸公園、稲城北緑地公園 ・三沢川側道(1路線) ・学校は、任意に設置
10年間の目標	・126公園 ・7路線 ・17校
展開手法など	・児童生徒や多くの市民の目につきやすい主要な部分から樹種の調査を行い、市民による手づくり樹名板などの設置の検討を行う。 ・その他、新たに整備される公園・道路では、主要な場所の植栽に樹名板を設置する。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	稲城中央公園(20本)、若葉台公園(10本)設置	
事業目標量	126公園	
第二期事業量	平成26年度	稲城中央公園、城山公園に設置
	平成27年度	若葉台公園、平尾近隣公園に設置
	平成28年度	大丸公園、大丸親水公園、上谷戸親水公園に設置
第三期以降	設置箇所を検討しながら随時設置	
平成27年度事業報告		
事業目標	若葉台公園、平尾近隣公園に設置	
事業実績	百村入谷戸児童公園、百村神化児童公園、ひつじさん公園、うまささん公園、うさぎさん公園、若葉台公園、稲城北緑地公園、吉方公園、幸方公園、本郷公園の10箇所に設置	
担当課評価	○	
評価理由	順調に設置が進んでいる。	
今後の対応	設置を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・順調に設置が進んでいることを評価。 ・予定通りに進んでいる。 ・少しずつ増えていって欲しい。樹名版の文字が読みにくいところもあり、補修も必要。 ・着実に全市に広げて欲しい。 ・味があるプレートである。 ・樹名板の設置は良いが、各学校にお願いして充実した情報入りの樹名板の製作はできないだろうか。数、内容ともにもっと充実すると思われ、さらに卒業後、自分の樹名板、あるいは他の方が作成した樹名板があっても思い出さるだろうし、この地域にさらに造詣、思い入れが深くなるのではないかな。

※事業例



吉方公園



担当課名	管理課	
第一期末の状況		
事業目標量	7路線	
第二期事業量	平成26年度	樹名板デザインの検討
	平成27年度	3路線
	平成28年度	4路線
第三期以降	追加路線の検討及び設置、必要に応じて更新	
平成27年度事業報告		
事業目標	3路線(多摩川サイクリングロード、三沢川側道、iプラザふれあいロー	
事業実績	なし	
担当課評価	×	
評価理由	樹名板デザインが決定できなかった。	
今後の対応	樹名板デザインの検討	

評価 (◎、○、△、×、－)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に期待している。 ・凝ったデザインより見やすいものであって欲しい。 ・人が行き交う場所は効果が大きいのので、ぜひ進めてほしい。 ・デザインをデザイナーや役所の方が決めるのではなく、稲城市在中の小、中、あるいは駒沢女子大学等にお問い合わせすれば、稲城市に対する愛着が深まるのではないか。 	

担当課名	指導課	
第一期末の状況	校長会において全校で統一した体裁にするか検討を行った	
事業目標量	市立小中学校17校	
第二期事業量	平成26年度	2校に設置
	平成27年度	2校に設置
	平成28年度	2校に設置
第三期以降	調整の完了した学校から順次作成及び設置(年間2校程度)	
平成27年度事業報告		
事業目標	2校に設置	
事業実績	2校に設置	
担当課評価	○	
評価理由	2校に設置することができたため(稲城第六小学校、南山小学校)。	
今後の対応	適宜、取り組みを促していく。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もたくさん設置してほしい。 ・ふりがなを振ってあるのが学校らしくて微笑ましい。 ・目標達成は評価する。しかしながら、全てで統一した体裁が必要ということで決着したと思われ、残念な気がする。 	

※事業例



南山小学校

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-3 水と緑の情報収集・提供

施策の展開方針	・水と緑に関する情報を市民と行政が共有化し、より多くの市民自らが積極的に水と緑のまちづくりを進めていけるように、水と緑に関する情報の収集と提供に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	市内全域
平成23年度末の状況	市ホームページによる情報提供
10年間の目標	・ホームページなどによる情報提供の充実 ・アダプト団体の交流の場の提供と活動の活発化による情報交換の促進
展開手法など	・指定管理者との連携を図り、市内各所の花の見所・時期、イベント情報などの公園・緑地の魅力を発信します。 ・アダプト制度による市民活動の活動報告の場の提供や各種活動団体同士の交流の場の提供などを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
第一期末の状況	市ホームページ【花の見ごろ情報(さくら情報・芝桜情報)・イベント情報(ホテルまつり・水辺の楽校)】	
事業目標量	・ホームページでは、市内の花の見どころ情報の充実、イベント情報の積極的発信	
第二期事業量	平成26年度	市ホームページの充実(継続)
	平成27年度	市ホームページの充実(継続)
	平成28年度	市ホームページの充実(継続)
第三期以降	・ホームページによる情報提供の継続 ・水と緑の市民提供情報の活用方法の検討 ・アダプト団体間交流の活動促進 ・市民活動の活動報告の場の提供や各種活動団体同士の交流の場の提供について検討	
平成27年度事業報告		
事業目標	市ホームページの充実(継続)	
事業実績	新規情報の随時アップ (桜情報、公園利用方法等)	
担当課評価	○	
評価理由	必要と思われる情報については、提供する事ができた。	
今後の対応	寄せられる意見等を参考に、分かり易い情報提供を目指す。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成27年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り進行したことを評価する。何件程度の情報を提供したかがわかると評価しやすい。 ・ホームページの入りが分かりやすいように工夫が必要。 ・パソコンの苦手な私でも見ることができる。これからもイベント情報等をお願いしたい。 ・ホームページ以外にも多岐にわたる情報提供に力を注いで欲しい。 ・より詳細な情報を提供することを考えると、今後は動画の添付や場所によっては定点カメラの利用等が考えられる。 ・指定管理者との連携が進んでいることが評価できる。 	